

事業所における自己評価結果 (公表)

公表：令和6年2月20日

事業所名 ほわわ品川

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		十分な活動スペースを取り、室内でも体を動かす活動を実施できる広さを確保している。	
	②	職員の配置数は適切である	○		基準を満たした上で、1対1～1対2で担当し、活動やケアの実施ができるように配置している。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		車いすやベビーカーも通やすくしている。送迎車も車いすのまま乗車できる車両を使用している。お子さまに合わせ、実物・写真・絵カード等の視覚情報を提示し、活動の予告をしている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日清掃を実施、室温湿度を保っている。室内でも身体を動かす活動をするためのスペースを確保している。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○		事業計画の実践が不足しているため、行動計画を作成する。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者等向け評価を実施している。いただいた意見を反映、改善に向けて取り組んでいる。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価と利用者アンケートの結果は、法人のホームページで公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価は行っていない。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修に参加している。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		新規利用前には自宅へ訪問し面談を行い、アセスメントを実施している。日々の通所日や年2回の面談にて保護者の意見や最近の様子を詳しく伺っている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		法人で定めたアセスメントツールを使用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画を実施できるよう、手順書を作り共有している。	
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		行っている。	
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		工作では季節ごとの内容を行っている。四季を身体で感じられるように公園等の外での活動もしている。	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		同じ日に様々な年齢や発達段階の利用者が通っているため、個別の活動が主ではある。年齢や身体の発達、物事の理解度をアセスメントし、発達段階同士の利用者さん同士で集団の活動を行っている。	
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日のコーディネート表や目標シート、手順書で確認と共有をしている。	
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		利用記録への記載は、活動の内容、排泄、食事、薬、体調の変化等を記録している。	
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用記録への記載や目標に対しての記録を行っている。	
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		利用者毎に発達段階や活動内容の評価、実施した反応を元に目標が適切かどうか、今後の目標を話し合っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的にはサビ管が参加しているが、内容によっては看護師も参加している。	
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて利用者毎の保健師と情報を共有している。	
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		各関係機関と情報共有、連携をしている。	
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		主治医からは看護師への指示書、介護職員へは医療的ケア実施の指示書をいただいている。保護者とは緊急時の対応や連絡方法を確認している。	
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行する場合には書類の提供を行っている。	
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就学先の学校へ情報提供や見学等を受け入れている。	
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		事業所連絡会で連携している。	必要に応じて助言や研修を受けられるようにする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		公園等では遊びに来ている園児と共に活動する機会がある。	機会が少ないため、今後検討する。
	㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		品川区医療的ケア児等支援関係機関連絡会の委員となり、参加している。	
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		朝と帰りの送り迎え時に保護者と共有している。課題や目標等も確認し、相談している。	
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		親子参加のイベントを開催している。	保護者向けの交流会や研修会を検討する。
	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約書重要事項説明書は年度毎に更新のため、ご説明している。	
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインの内容は重要事項説明書へ記載し、その中から利用者毎の内容を個別支援計画へ反映している。 個別支援計画は説明して、同意を得ている。	
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		行き帰りの引き継ぎやLINEWORKSにて連絡が取れるようにしている。	必要な助言ができるようスタッフの専門知識等を増やせるようにする。
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		親子で参加するイベントを開催し、保護者同士が交流できる機会を作っている。	開催頻度や内容を検討する。
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情を受け付けてから、解決するまでの対応を整備している。苦情を受け付けた際は、早急に対応し、解決するようにしている。	
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に1回ばわばわという会報を発行している。日々の活動の写真や看護師からのお知らせを掲載している。	
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している	○		契約時に個人情報の取り扱いを保護者へ説明し、書面により同意を得ている。また、個人情報が記載されている書類の取り扱いは鍵付書庫への保管、破棄する書類はシュレッダーをかけている。	
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		口頭、文章など必要に応じて使い分けをしている。利用者それぞれの表出のサインを確認している。必要に応じ、実物・写真・絵カード等の視覚情報を用いて活動の予告をしている。	
	㉜	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		ボランティアやインターンの受け入れをしている。	

保護者への説明責任等

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		緊急時対応マニュアルは利用者毎に親御さんと相談確認の上作成している。感染症対応は契約時に文章を配布し、新型コロナウイルス感染症に関しては別途対応方法をまとめた文章を配っている。職員へはマニュアルや手順を共有。緊急時対応や嘔吐処理のシミュレーションの訓練を実施している。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練は月に1回実施し、階段でバギーを1階へ運ぶ、階段で避難する、避難先の小学校まで避難する訓練を実施している。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		お薬手帳にて服薬の確認。予防接種は受けたときに連絡帳で確認。てんかん発作等は起きた場合の対応方法を事前に確認している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーに関しては利用前の面談にて保護者から確認し、食器のスポンジやカゴを分けている。利用後に判明したアレルギーは都度共有していただき、アレルギーの度合いにより自宅と同じ対応策を実施している。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットが発生した場合は、ヒヤリハット報告書を作成し、分析。全スタッフが確認するように共有している。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		事業所内では虐待防止身体拘束適正研修を実施し、管理者は自治体主催の研修へも参加している。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		座位保持椅子や車いすの使用がある利用者の個別支援計画に記載している。長時間の使用にならないように配慮している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。